

6.3.1

佐倉市

# 教育センターだより

Vol.62

令和6年3月1日発行 / 佐倉市教育センター / TEL.043(486)2400 <https://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/kyoikucenter/index.html>

## 新学期に向けて「安定」した支援を

佐倉市教育センター所長 松原 和弘

まだ空気は冷たく感じますが、近所を歩いてみると少しずつ緑が増え、ヒメオドリコソウやホトケノザなど、野草が小さな花を咲かせています。中学校の理科教師である私はこの時期、毎年のように道端のちいさな春の息吹を確認（観察）し、「今年も大丈夫」と安心感に似た不思議な感覚を覚えています。3月は春の訪れを感じるととても穏やかな時節ですが、子供たちにとっては進級やクラス替え、進学など、新学期の環境の変化を目前に控え、ワクワク、ソワソワした気持ちになったり、漠然とした不安を感じたりする時期でもあります。

担任の先生が変わること、クラスの友達が変わること、教室が変わること、学校が変わること…子供たちにとってこれらの変化はとても大きな変化です。周りの環境が変化することは子供たちの心に大きな影響を及ぼします。学期に数回行われる“席替え”ですら、子供たちにとっては一大事です。子供のころ席替えを前にドキドキ、ワクワクした思い出をお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか？大人になると忘れがちですが、小さな「変化」でも子供には大事（おおごと）になることがあるのです。しかも、3月はその変化がまだ具体的な形として見えません。見えないからこそ、心はいつも以上に大きく揺れ動く…。私は3月という月のソワソワ感や不安定さは、こうした背景からくるものだと考えています。

一方で、子供は環境の変化やそれに伴う不安などを乗り越えて成長していくという一面もあります。不安があるからこそ準備をします。準備は困難を乗り越える糧となり、未来を考え想定することは生きるための力として蓄積されていきます。また、初めての仲間や先生との出会いなど、変化そのものが知見を広げ、新たな気づきが得られたり、感覚が養われたりすることはよくあることです。さらには、「心機一転」という言葉があるように、環境の変化が停滞していた心にはずみを与え、今までできなかったことが急にできるようになることさえあります。私たち大人は、子供たちの環境の変化、それに伴う不安、そして成長を想定し、寄り添い、励まし、時には見守り、必要に応じて手を差し伸べていくことが大切だと思っています。そして、子供が不安を感じている時には、その不安を増長させないためにも、できる限り落ち着いて、一定の温度感で支援をしていくことが重要だと考えます。

ご家庭でのお子様の様子はいかがでしょうか？学校での児童・生徒の表情はどうでしょうか？気になる様子が見受けられたら、慌てず、ゆっくりとした口調で声をかけてみてください。子供から何も返答がなくても、「気にかけてもらっている」ということは伝わります。いつもそこにいてくれる安定した存在は、子供たちの大きな支えとなります。そして、周りの大人たちで情報を共有していきましょう。見守りの目を増やすことは次のタイムリーな声掛けにつながります。これから迎える新学期が子供たちを大きく成長させる節目となることを願い、教育センターもご家庭及び学校を支えていきたいと考えています。

春、毎年同じようにその姿を見せてくれる植物たちを見て、私がホッとするのは、そこに「安定」を感じたからかもしれません。大人にとっても節目と心の安定は大切ですね。

# 学校図書館の役割



学校図書館は、図書館資料を児童生徒や教員の利用に供すること等により、「学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成すること」を目的とするものであり、以下の3つの役割を担うものとされています。

## 読書センター

自由な読書活動や  
読書指導の場

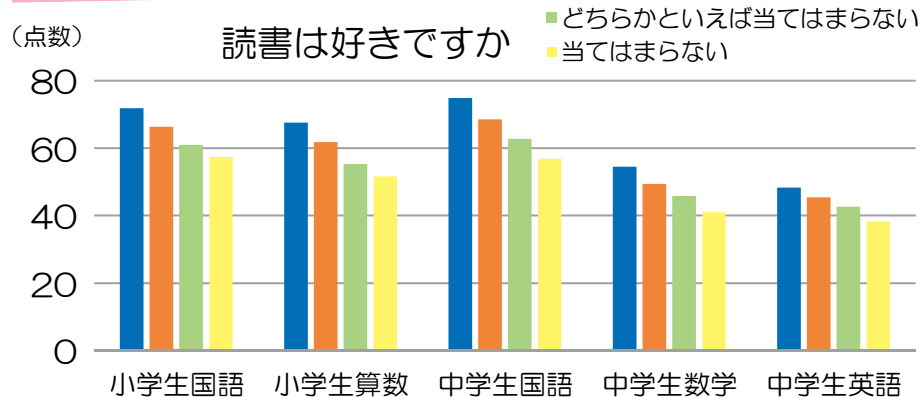
## 学習センター

児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにし、その理解を深めたりすること。

## 情報センター

児童生徒・教職員の情報ニーズへの対応や、児童生徒の情報収集・選択・活用能力を育むこと。

## 読書と学力との関係



左の図は令和5年度全国学力・学習状況調査で佐倉市の児童生徒が回答した結果です。読書を好きですかという質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒は、どの教科においても、平均正答率が高くなっています。

読書が好きなことと、学力は相関関係にあることがわかります。

## 「読書したい」と思える環境に

各学校図書館では、児童生徒の発達段階や興味関心に合わせて、環境整備に工夫を凝らしています。読書意欲を高めることを意識した活動やテーマ展示の一部について、写真を交えて紹介します。



学校図書館司書がおすすめの本を100冊選んで、図書館に入ると目につくところに、配置しています。



中学校では、注) ビブリアバトルでチャンピオンになったチャンプ本を新聞記事とともに掲示しています。つい手に取りたくなくなってしまいますね。

注) ビブリアバトルとは自分が面白いと思った本を持ち寄って順番に紹介し、ディスカッションを行い、最後に一番読みたくなった本を投票で決めるというゲームです。



天下統一読書合戦を行っています。図書館で本を借りると領地券がもらえます。領地券を貯めて、都道府県をクラス対抗戦で取り合います。クラスで協力して、読書数を増やしています。

## まとめ

学校図書館が充実し、その役割を果たすことで、読書好きの子供を増やし、確かな学力、豊かな人間性を育みます。

佐倉市では、学校図書館司書と担当の教諭が協力して、魅力ある図書館づくりに努めています。





# 学校と本人と保護者のための「合理的配慮」とは？

「合理的配慮」という言葉を耳にすることが多くなったかと思います。

聞いたことがあるけど、具体的にはどのようなことを「配慮」というのか、どのような手順で合理的配慮を申し出るのか、どのような手順で配慮内容を検討するのか…あまり明確でない部分があるかもしれません。

本号では、「合理的配慮」について改めて知ること、佐倉市の学校における「合理的配慮の提供」についての状況をお伝えすることを目標にまとめました。

## 1. 学校における「合理的配慮」の経緯 図1

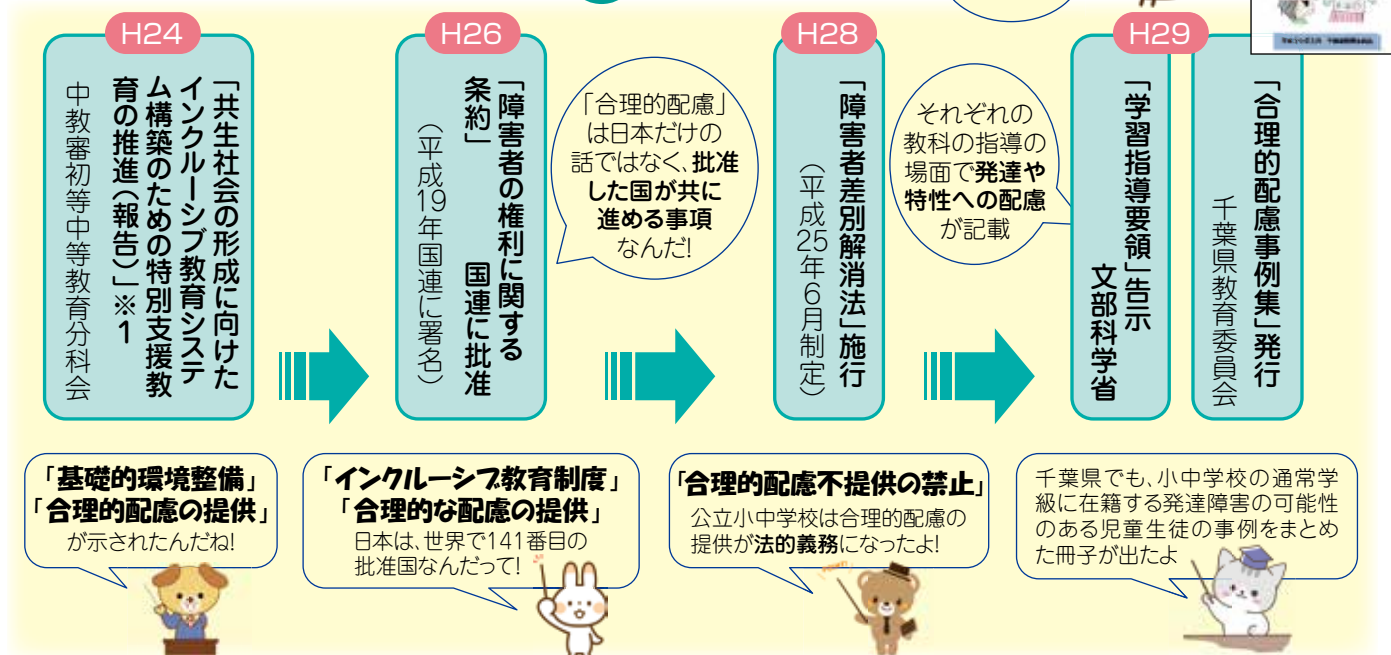


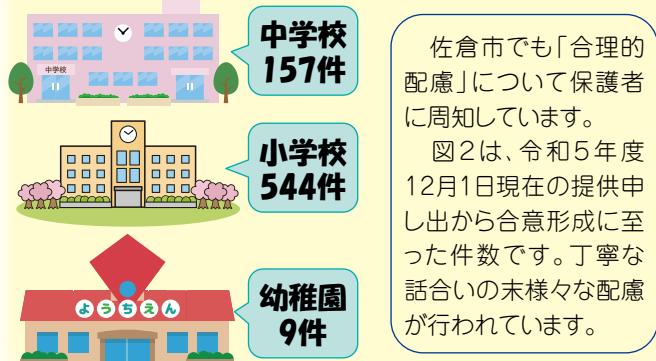
図1※1では、教育の場における合理的配慮を以下の二つの視点でまとめています。

- ① 「障害のある子どもが、他の子どもと平等に『教育を受ける権利』を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの」
- ② 「学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの」

「合理的配慮」提供の基礎には、各学校における「基礎的環境整備」があります。それぞれの学校の教育環境の整備により、提供される「合理的配慮」も異なるため、学校と保護者、本人との対話が必要不可欠です。

## 2. 佐倉市の「合理的配慮」の状況 図2

「合理的配慮」が学校と保護者で合意形成された件数



## 3. 「合理的配慮」の例 図3



「合理的配慮」は、本人や保護者からの申し出が基本となります。ただ、「配慮を求める意思の表明」ができる保護者や本人ばかりではありません。そのことも念頭におき、子どもの様子を見守る必要があると思います。何より目指すのは、子どもたちが将来社会に出て自立した生活を送ることではないでしょうか。そのために、子どもたちの学ぶ権利を守り、多くの学びが得られるよう、子どもを守る支援者全員で連携していくことが大切なのではないかと思います。

# 不登校 悩んだり困ったりしていませんか？

佐倉市教育センターは、不登校支援として、相談業務や、教育支援センターである「ルームさくら 志津教室・佐倉教室」の運営をしています。

### 佐倉教室

ヤングプラザの2階にあります。小・中の3つの部屋があり個室対応が可能です。




■佐倉市栄町8番地7  
京成佐倉駅南口より徒歩2分程度  
☎043-484-6611

### 志津教室

西志津ふれあいセンターの2階にあります。明るく開放的な教室です。




■佐倉市西志津4丁目1番地2号  
京成志津駅南口より徒歩20分程度  
☎043-489-1002


### 佐倉市教育電話相談室

学校や身のまわりのことで悩んだらこちらへお電話を ☎484-6611



不登校には、前兆期→不安定期→安定期→回復期があり、下図のように、段階によって支援の目的や方法が変わります。

## 〈不登校の回復段階〉

時期	前兆期	不安定期	安定期	回復期
高→ 心のエネルギー 低→		どこにも行きたくない。	つまらないな。誰かに会いたいな。	
本人の状態	表情が暗い 集中ができない 成績が下がる エネルギー低下 孤立	頭痛・腹痛 登校渋り・欠席 車から降りない とじこもる 昼夜逆転	日常が戻る	放課後登校等
本人の気持ち	どうして学校に行けないのか、自分でもわからないよ。	混乱	安定	試行
○支援の目的 ●支援の方法	○孤立緩和 ●声掛け	○安定させる ●休養をとらせる	○エネルギーをためる ●他人との関わり体験	○活動への援助 ●現実的な考えや行動への具体的な活動

### 学校が苦手な児童生徒の保護者の方へ

## 不安や困りごと、ありませんか？

#### 学校に行きたがらない

- 学校から帰ってくるといつも疲れている
- 学校に行くとうつやお腹が痛くなる
- 家や自分の部屋から出たがらない

#### 心配な状態が続いている

- ゲームやSNSに没頭して昼夜逆転している
- 学習の速度が遅れ、学校の授業についていけない
- このままでは、将来、進学や就職できないのでは

#### 子どもへの接し方が分からない

- 子どもに学校に行くよう働きかけてよいか
- 学校に行かない理由を聞いてよいか
- 理由を聞いてもよく分からない／答えがらない
- 家庭学習を続けるべきか
- 誰にも相談できない


一人で悩まないでください

不登校は問題行動ではありません。誰にでも起こり得ることです。お子さんや保護者の方の周りには、様々な支援の輪が広がっています。不登校学校が苦手なお子さんの保護者の方の相談先などご紹介いたします。

(参考文献: 「不登校への標準対応」小澤美代子/監修)

不登校は問題行動ではありません。関係機関で連携し、その子の状態に合った、その時々に必要な支援をしていくことが大切です。

教育センターでは、左図の「不登校相談機関紹介リーフレット」を作成しています。興味がある方は、是非ご活用ください。



[https://www.city.sakura.lg.jp/material/files/group/62/R5futoukou\\_leaflet.pdf](https://www.city.sakura.lg.jp/material/files/group/62/R5futoukou_leaflet.pdf)